

### 第32回： 環境分析・モニタリング技術の新しい展開

開催日： 1997年11月27日～28日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 化学物質による環境汚染の広がりにより、個別の化学物質に対する規制が拡充、強化されてきた。それに伴って精密な調査・研究のための分析が必要とされるのはもちろんであるが、それだけでなく日常のルーチンワーク的な環境分析、高度な設備や技術のない地域での分析、あるいは土壌・地下水汚染のモニタリング技術などの必要性が高まっている。これらの状況を反映して新しい分析手法、試料調整方法、分析機器、およびモニタリング手法が種々検討・開発されている。そこで、これらの技術の進歩の詳細を学ぶとともに、環境関連分野の立場からこれらをどのように利用していけばよいかを考えるセミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 水環境保全のための分析技術のありかた（森田昌敏／国環研）
- 水試料調整方法の進展と今後（安藤正典／国立医食衛研）
- 固体試料調整方法の進展と今後（川本克也／関東学院大）
- GCおよびGC/MSを応用した有機化合物分析技術の進展（山上仰／横河アナリティカルシステムズ）
- HPLCおよびLC/MSを応用した有機化合物分析技術の進展（土屋悦輝／東京都衛研）
- キャピラリー電気泳動と環境分析への応用（田中稔／大阪大・保全科学研セ）
- ICPおよびICP-MSを応用した無機化合物分析技術の進展（国環研／柴田康行）
- 生物工学的モニタリング技術の応用（大迫政浩／国公衆院）
- 簡易分析技術の進展と今後（浦野紘平／横浜国大）
- 土壌／地下水汚染モニタリング技術の進展と今後（三宅酉作／環境テクノ）